



# 令和7年産（6年播種） 麦類の生育概況 vol.1



埼玉県マスコット  
「コバトン」

（令和6年12月5日現在）  
埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎気象概況：11月の平均気温は、中旬はかなり高く下旬は平年並であった。降水量は第1半旬にまとまった降雨があり、その後も定期的な降雨により月合計では多かった。
- ◎生育状況：播種作業は遅れており、気温の低下に伴い出芽に日数を要している。
- ◎今後取るべき技術対策
  - ・播種作業：今後播種する場合は、播種量を1～2割増やし苗立ち数を確保する。
  - ・排水対策：明きょを設置していないほ場は必ず実施し、排水路と連結させる。
  - ・雑草防除：播種後土壌処理剤が散布できなかったほ場では、雑草の種類と葉齢を確認し、適期に茎葉兼土壌処理剤を散布する。
  - ・病虫害防除：今後播種する場合は、なまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生リスクが高まるため、種子消毒を必ず実施する。
  - ・麦踏み：3枚目の葉が出たら、ほ場の土壌水分状態に注意して実施する。

## 1 気象の概況

11月の平均気温は第2半旬を除いて平年を上回り、月平均では1.3℃高くなった。降水量は第1半旬に41.5mm、第3半旬に8.5mm、第6半旬に13.5mmと定期的な降雨により月合計では平年比123%と多かった。日照時間は月合計で平年比113%と多かった。

## 2 生育の概況

### (1) 所内生育相

令和6年播よりビール大麦の県内作付品種を「彩の星」から「ニューサチホゴールデン」に全面切り替えたため、生育相調査においても品種を変更することとした。なお、「ニューサチホゴールデン」は前年播のデータとの比較となるため、留意が必要である。

小麦、大麦とも播種時の土壌は適湿であり、碎土が良好な条件で11月25日に播種作業を実施した。

### 所内生育相の耕種概要

品種名	播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
		基肥	追肥
さとのそら	6.0	6.0	4.0
ニューサチホゴールデン	6.0	7.0	2.0

注1. 播種様式:シーダーテープによる条播(条間30cm)。

## (2) 県内全般

11月の定期的な降雨により、麦の播種作業は遅れている。播種作業の進捗状況は11月20日現在で大麦15%（平年59%）、小麦6%（平年48%）。12月4日現在で大麦89%（平年87%）、小麦55%（平年83%）と小麦の播種作業が遅れている（農業支援課調べ）。

11月中旬までに播種されたほ場では、出芽・苗立ちは順調である。しかし、播種時期が遅くなったほ場では気温の低下に伴い、出芽に期間を要している。

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

1か月予報では平均気温は低く、降水量は少ないと予報されている（気象庁12月5日発表）。

3か月予報では平均気温は1月、2月ともほぼ平年並。降水量は、1月は平年並か少ない、2月はほぼ平年並と予報されている（気象庁11月19日発表）。

### (2) 生育予測

11月中旬までに播種されたほ場では、順調な生育が見込まれる。12月に播種されたほ場では、出芽の遅延により初期生育が遅れ、莖数不足が懸念される。特にビール麦では、莖数不足は遅れ穂の発生につながり、収穫期の判断が遅れ刈遅れになることで裂皮・剥皮が発生し品質が低下するため注意が必要である。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 播種作業

12月播きの場合、苗立数（100～150本/m<sup>2</sup>）を確保するため、碎土率を高め、播種量を1～2割程度増やす。ほ場が乾燥している場合は、播種後に鎮圧を行うことで均一な出芽を促す。なお、遅播きの麦は葉枚数が減少し、節間が伸びて倒伏しやすくなるため、施肥量はやや控える。

### (2) 排水対策

近年しばしば発生するまとまった降雨に対応するため、明きょを設置していないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、播種作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があれば速やかに補修する。

### (3) 雑草防除

播種後土壌処理剤を散布できなかったほ場や、麦の出芽や雑草の発生が始まったほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に使用可能な茎葉兼土壌処理剤を散布する。

### (4) 病虫害防除

固定の水田転換畑や畑で小麦を連作している場合、コムギなまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生が懸念され、晩播によりそのリスクが拡大する。前年

発生ほ場及びその周辺では種子消毒を必ず実施する。

#### (5) 麦踏み

麦踏みには、下位節からの分けつ発生を促し、莖数を増加させる効果がある。麦の3葉目が出始めたら、年内に1回ローラー等で軽めに麦踏みを行う。ただし、土壤水分が高い状態で実施すると土壤が締まり湿害を助長するため、天候や土壤の水分状態に注意して実施する。また、過乾燥の場合は、過剰な麦踏みでかえって生育を抑制する危険性があるため注意する。

11月21日に播種したほ場では12月22日頃、12月1日に播種したほ場では1月12日頃に3葉目が展開を始め、麦踏みを開始できると見込まれる(農作物発育予測プログラムによる発育予測)。実際のほ場の生育状況を確認して麦踏みを始められるようになったら、速やかに行い、早期の分けつ確保を心掛ける。

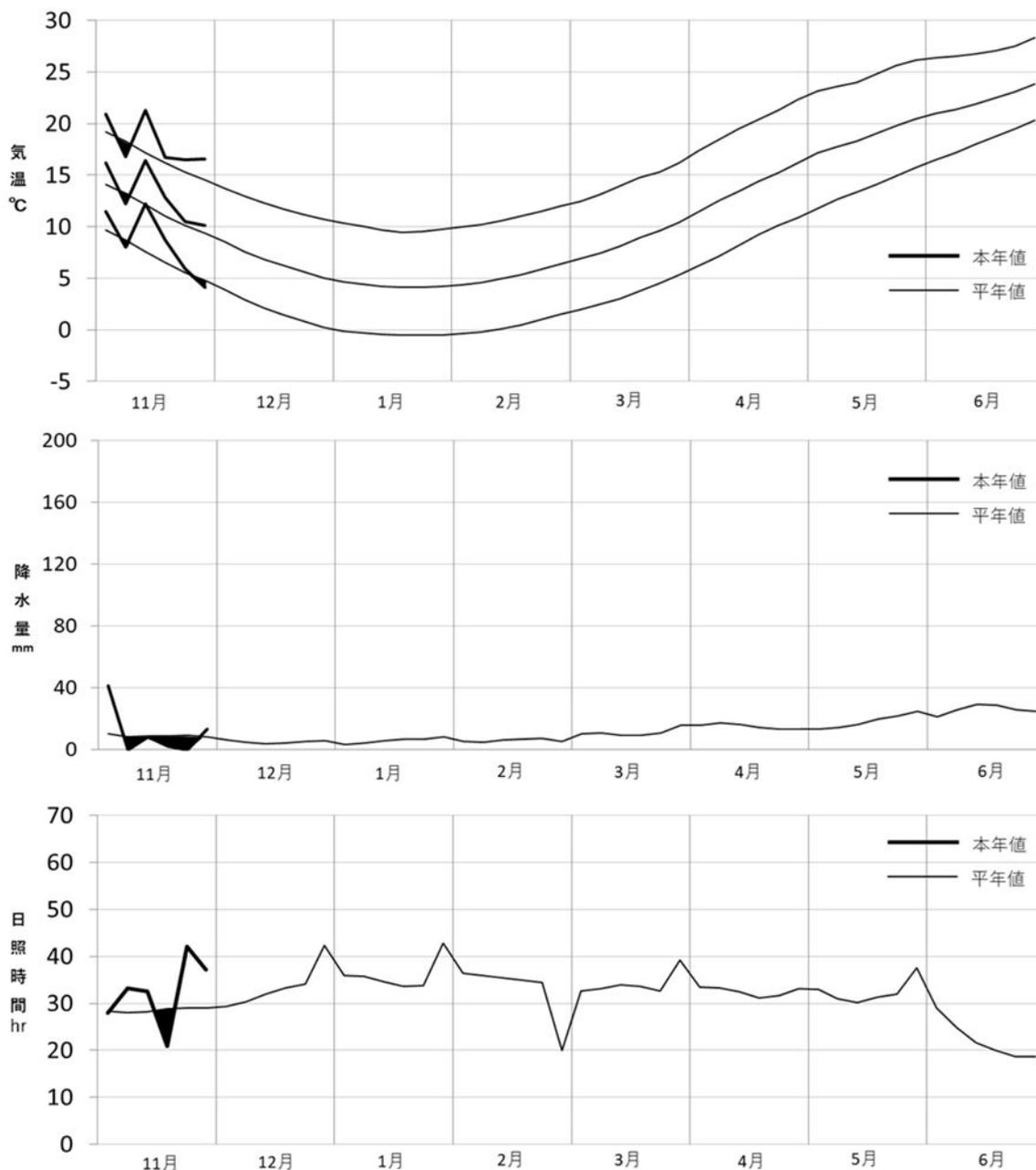
## 解析・考察に用いた具体的数字

### 1 11月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	16.2	14.1	20.9	19.2	11.5	9.7	41.5	10.4	28.0	28.4
2	12.2	13.2	16.8	18.3	8.0	8.7	0.0	8.5	33.2	28.0
3	16.4	12.1	21.3	17.2	12.2	7.6	8.5	9.0	32.6	28.2
4	12.8	11.0	16.7	16.2	8.7	6.5	2.5	9.0	20.9	28.9
5	10.5	10.1	16.5	15.3	5.9	5.6	0.0	9.1	42.1	29.0
6	10.1	9.4	16.6	14.5	4.1	4.8	13.5	8.3	37.1	29.0
平均	13.0	11.7	18.1	16.8	8.4	7.2	合計 66.0	53.5	193.9	171.6

注) 半旬数値は熊谷地方气象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は气象台値。

平年値は 1991～2020 年の气象台値。



令和6年播（7年産）冬作期間気象図  
（熊谷地方气象台日別データより作成）